

学部基礎科目の目次 (平成29年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(14E~17E)の科目区分別に編成されています。13E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|-------|-------|-------|-------|----|
| 経 | 済 | 学 | 入 | 門 | | 1 | | | |
| 経 | 済 | 数 | 学 | 入 | 門 | イ | | 3 | |
| 経 | 済 | 数 | 学 | 入 | 門 | ロ | | 4 | |
| 統 | 計 | 学 | 入 | 門 | イ | | 5 | | |
| 統 | 計 | 学 | 入 | 門 | ロ | | 6 | | |
| 経 | 営 | 管 | 理 | 論 | | 7 | | | |
| 簿 | 記 | 入 | 門 | イ | | 8 | | | |
| 簿 | 記 | 入 | 門 | ロ | | 9 | | | |
| 経 | 済 | 史 | 入 | 門 | | 11 | | | |
| ミ | ク | ロ | 経 | 済 | 学 | I | イ | | 13 |
| ミ | ク | ロ | 経 | 済 | 学 | I | ロ | | 14 |
| マ | ク | ロ | 経 | 済 | 学 | I | イ | | 15 |
| マ | ク | ロ | 経 | 済 | 学 | I | ロ | | 17 |

| | | | |
|--|----------------|---------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310110) 経済学入門 Introduction to Economics | 科目区分 | 時間割 前期集中 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 井上 貴照 | 関連授業科目 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ | |
| 学習時間 講義90分×15+自学自習 | | | |
| 授業の概要 今年度は、経済学の基礎理論である「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の基本的な考え方について学修します。この講義では、ミクロ経済学の分野では、市場経済の仕組み、各種の財・サービスの価格がどのように決定されるか、市場均衡と社会的厚生について学修します。マクロ経済学の分野では、国民所得の定義、国民所得の決定そして財政・金融政策や国際貿易と国民所得の決定を学修します。ミクロ経済学とマクロ経済学は、現代経済学の基礎になる分野です。 この講義で学ぶことにより、経済を見る眼を養い、日々の新聞記事や経済ニュースを理解し、これらの諸問題を自分の頭で経済学的に考えることができるようになるでしょう。 この講義では、2年次に学修するミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの内容を理解するための基礎知識を修得することができます。 また公務員の採用試験、大学院の入学試験、経済学検定試験や公認会計士の資格取得（経済学は選択）において、ミクロ経済学とマクロ経済学は、特に重要な科目です。 | | | |
| 授業の目的 ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を修得する。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1. 経済学の入門的な理論を体系的に修得することにより、経済学的な考え方を修得することができる。 2. 論理的思考力を身につけることができる。 3. 日々の新聞記事や経済ニュースを通じて経済に関する諸問題を経済学的に解明できるようになる。 4. 「経済学検定試験」や公務員・資格試験の問題を解くための勉強ができる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 数回の宿題を課しますが、基本的には中間試験および期末試験を総合して認定します。中間試験を約40%、期末試験を約60%の配分で成績を評価します。中間試験および期末試験においては、A4判の自筆のメモ用紙1枚と定規の持込みを認めます。より詳しい単位認定方法および成績評価については、第1回目の授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 授業の進度は、以下のように予定しています。 第1回：シラバスの説明、授業内容を理解するために必要な数学 第2回：経済学とは、？(1)経済学の定義、経済体制 第3回：経済学とは、？(2)経済学の方法論、経済学の規範的側面 第4回：需要・供給と市場経済：市場経済の仕組み、完全競争市場、市場の安定性 第5回：市場均衡と社会的厚生(1)消費者余剰、生産者余剰 第6回：市場均衡と社会的厚生(2)市場均衡と社会的厚生 第7回：市場均衡と社会的厚生(3)規制、物品税、輸入制限と社会的厚生 第8回：中間試験 第9回：国民所得の諸概念(1)GDPとGNI 第10回：国民所得の諸概念(2)国民所得の分配と支出、国民所得の諸概念 第11回：国民所得の諸概念(3)名目国民所得、実質国民所得、物価指数 第12回：国民所得の決定(1)消費と貯蓄、国民所得の決定 第13回：国民所得の決定(2)乗数、インフレ・ギャップ、デフレ・ギャップ 第14回：国民所得の決定(3)自動安定化装置、財政・金融政策 第15回：国民所得の決定(4)国際貿易と国民所得 【授業の方法】 1. 講義ノート・handout・資料にしたがって説明します。 2. 要点・補足説明を板書します。 【自学自習に関するアドバイス】 1. 授業終了後に必ず復習して下さい。履修者が復習することを前提に授業が組み立てられています。 2. 授業内容は連続しているので欠席すると理解できなくなることを心に留めておいて下さい。 | | | |

教科書・参考書等

1. 教科書：井上貴照(2018)『経済学入門講義ノート』(非売品)

2. 参考書

講義中に紹介します。

オフィスアワー 最終校時終了後(左記の時間以外でも時間の許すかぎり質問に応じます。)

研究室：幸町キャンパス南3号館3階北側

できれば、あらかじめ電話かメールで予約してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語は厳禁です。注意しても私語をやめない場合、履修者名簿から名前を削除します。

| | | | |
|--|----------------|------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310121) 経済数学入門イ Introduction to Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割 後期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 星野 良明 | 関連授業科目 | ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる基礎数学(特に微分と偏微分)について、証明よりも公式と解法に重点を置いて講義します。高校数学の復習からはじめて、経済学における活用例を交えながら解説します。 | | | |
| 授業の目的 経済学で使う微分と偏微分の基礎を理解する。経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1. 微分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します。なお、小レポートや確認テストなどを追加的に行い、成績評価の(未提出でも減点なしの)加点材料として用いる場合があります。詳細は初回授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 【授業の方法】授業は主に板書によります。必要に応じてプロジェクタや配布物を用います。 | | | |
| 【授業計画】進行状況により若干の変更をする可能性があります。 | | | |
| 1. 経済学で扱う基本関数 (第1～3回) 2. 微分とその応用 (第4～8回) 3. 等高線と偏微分 (第9～12回) 4. 2変数最適化問題 (第13～15回) | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】講義中に復習のために演習問題を出します。予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です。また理解を深める上で、エクセルなどPCソフトで関数グラフを描いてみることも有用です。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】使用しません。 【参考書】 ・丹野忠晋(2017)『経済数学入門：初歩から一歩ずつ』日本評論社。 ・白石俊輔(2014)『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社。 ・尾山大輔・安田洋祐(2013)『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版, 日本評論社。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日4時限目(予定) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 最初のうちは高校の復習が多くなりますが、油断せずに継続して出席することが大切です。 | | | |

| | | | |
|--|----------------|------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310122) 経済数学入門 Introduction to Mathematics for Economics Basic Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割 後期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 ラナデ | 関連授業科目 | ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目 | |
| | 履修推奨科目 | 履修にあたって必要とされる科目はありません。 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 経済学ではツールとして数学が積極的に活用されています。しかしこの点が経済学を学習する際の障害になる場合も多いようです。そこでこの講義では、経済学を学習するための数学的トレーニングとして微積の基本的内容を、経済学における活用例を素材に学びます。 高校数学の復習から始め、経済学では数学をどのように使うのかを例を交えながら解説します。 | | | |
| 授業の目的 授業の目的・達成目標 1. 微分と積分の基本的内容の学習を通じて、経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につけること。 2. 数学への苦手意識がある人は、それを解消すること。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1. 微分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題&class-work (4割) と期末試験 (6割) により評価します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 授業及び学習の方法 授業は主に板書によります。宿題&class-workとして演習問題を課します。 予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です 1. 微分-積分の基礎 (3回) 2. 複変数の関数 (4回) 3. 偏微分 (4回) 4. 全微分 (1回) 5. 最大化、最小化 (4回) 6. まとめ (1回) | | | |
| 進行状況により、変更をする可能性があります | | | |
| 教科書・参考書等 使用しません 参考書については開講時に紹介します。 | | | |
| オフィスアワー 毎日18時以降 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意は初回授業で説明します。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310141) 統計学入門Ⅰ Introduction to Statistics | 科目区分 | 時間割 前期水1 | 対象年次及び学科 指定学籍番号の1年 |
| | 水準・分野 B1STT | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 大野 拓行 | 関連授業科目 | 情報リテラシー | |
| | 履修推奨科目 | 統計学 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 社会科学を学ぶ際には、これまでに蓄積されてきた理論を学習するとともに、現実のデータから有益な情報を見出す方法を習得することが大切である。データの特徴を客観的に記述したり、データからの推論を客観的に行う際には、統計的手法が役立つ。この講義は経済学部が、専門教育や社会に出てから必要となるであろう基本的な統計学の知識の習得を目的とする授業である。数学の基礎知識は特に必要はないが、四則演算を中心とした計算は頻繁に出てくるので、こつこつと努力する必要がある授業である。 | | | |
| 授業の目的 記述統計と推測統計の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・データを整理して、分布の中心や広がりを理解できる。 ・基本統計量により、分布の特性を読み取る能力を養う。 ・正規分布の重要性を理解し、利用できるようになる。 ・統計的推定の基礎を修得する。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 授業における演習、Moodleの小テスト、期末試験などを総合的に見て評価する。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) 授業の概要 (2) データの整理 1 (3) データの整理 2 (4) 基本統計量 1 (5) 基本統計量 2 (6) 分布の形 (7) 正規分布 1 (8) 正規分布 2 (9) 正規分布 3 (10) 標本の分布 1 (11) 標本の分布 2 (12) 推測統計の基礎 (13) 母集団の推定 1 (14) 母集団の推定 2 (15) 母集団の推定 3 【自学自習に関するアドバイス】 練習問題を丁寧に解くこと。 | | | |
| 教科書・参考書等 特に使用しない。講義用資料をMoodleに掲載する。 | | | |
| オフィスアワー 火曜日 4 限目 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業内容は連続しているので、欠席すると理解できなくなります。 Moodleを利用します。 | | | |

| | | | |
|--|----------------|-----------------|------------------------------------|
| ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 310142) 統計学入門 Introduction to Statistics | 科目区分 | 時間割 前期水1 | 対象年次及び学科 指定学籍番号の1年、 2年以上、その他 |
| | 水準・分野 B1STT | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lb | 単位数 2 | |
| 担当教員名 横山 佳充 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | 統計学 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 統計学は経済にかかわらず、他の分野でも必要とされる分野です。教科書は経済の例や表計算ソフトであるExcelのソフトウェアを用いて説明を行っています。授業では経済学科以外の学生を対象に、統計学の考え方を理解できるように解説します。 | | | |
| 授業の目的 記述統計と統計的推測の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> 基本統計量を計算し、分布特性を読み取る能力を養う。 度数分布を作成し、分布の中心や広がりを理解できる。 確率分布（基本的に正規分布）が使えるようになる。 サンプリングによる統計的な推定の基礎を理解できるようになる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績で判断しますが、レポートの提出や小テストの結果なども加味します。詳細は第1回目の講義にて説明しますが、基本的に本試験の得点ウェイト7に対し、それ以外が3程度です。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 プロジェクターによる講義形式、時間に余裕があれば演習時間を確保し理解に努めるようにしたい。 | | | |
| 1 授業の概要 2 データの整理 1 3 データの整理 2 4 基本統計量 1 5 基本統計量 2 6 分布の形 7 正規分布 1 8 正規分布 2 9 正規分布 3 10 標本の分布 1 (ランダムな標本と平均) 11 標本の分布 2 (ランダムな標本と平均) 12 推測統計の基礎 13 母集団の推定 1 14 母集団の推定 2 15 母集団の推定 3 | | | |
| <p>授業の進行程度に合わせても変わりますが、「ランダムな標本と平均」の部分までは確実に終了する予定です。「母集団の推定」については他授業『統計学』につながる部分であるので、可能な限り解説する予定です。</p> <p>なお、授業等に必要な配布物は指定の方法でファイル形式で配布します。詳しくは第1回目の授業で説明します。</p> | | | |
| 教科書・参考書等 『教養 統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、¥1700+税 | | | |
| <p>なお、授業にあたって資料等必要とする場合があるので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第1回目に説明します。</p> | | | |
| オフィスアワー 火曜日 4時限目 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中私語を慎むなど、他の学生に迷惑をかけないよう最低限のルールは守ること。また、授業中、許可なくスマホ等を使用しないように。 | | | |

| | | | |
|--|----------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcxE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320201) 経営管理論 Principles of Management | 科目区分 | 時間割 前期木5 | 対象年次及び学科 1～経済学部(他学部生の履修は不可) |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 20 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 細見 正樹 | 関連授業科目 関連する科目 履修推奨科目 | 経営・イノベーション、会計・ファイナンスに | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 経営管理論とは、企業や官公庁といった組織で、どのように管理・運営をしていくかについて学ぶ学問である。組織がどのようなメカニズムで動いているかについて学ぶと、クラブ・サークル活動で組織に所属したり、将来企業や官公庁で働くみなさんにとっても役立つ。この講義では、教科書および補助資料を用いて、経営管理の全体像、組織をどのように管理するか、外部環境とどのように関わるか、日本の経営の特徴の順で説明する。 | | | |
| 授業の目的 本講義では、初めて経営学を学ぶ学生を対象に、経営管理論についての全体像や専門知識を習得してもらうことを目的としている。幅広い経営学に関するトピックを概観し、今後経営学を専門的に学習する橋渡しとなることを目的としている。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 経営管理論についてどのようなトピックがあるか説明できる。 経営管理論の重要なトピックについて簡単に説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験(75%)と講義中に課する小レポート等(25%)の合計で評価する。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業及び学習の方法】 教科書に沿って講義を進め、参考資料として補助プリントを使用する。ただし、学習効果を高めるため、講義内容を増減する可能性はある。 【授業計画】 (1)経営管理の全体像 (2)企業 (3)マネジメントの誕生 (4)組織マネジメントの展開 (5)モチベーション (6)リーダーシップ (7)組織構造のマネジメント (8)組織文化 (9)経営組織の環境適応 (10)企業戦略 (11)競争戦略 (12)イノベーション (13)日本の人材マネジメント (14)日本の生産管理 (15)日本の財務管理とコーポレートファイナンス | | | |
| 教科書・参考書等 上野恭裕・馬場大治編(2016)『経営管理論』中央経済社 | | | |
| オフィスアワー 金曜日4限目 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 最初の講義で説明するが、教科書および補助資料を用いて講義するので、印刷の上講義に臨むこと。 普段から、ニュースや新聞に目を通しておくと経営学に関する関心が高まります。また、クラブ・サークル内の組織や組織にいる人についても、学んだ内容をあてはめてみると学習内容が理解しやすくなります。 私語は厳禁とする。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|---------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード：320312) 簿記入門イ Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割 前期火4 | 対象年次及び学科 指定学籍番号の1年 |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 井上 善弘 | 関連授業科目 | 会計学総論, 株式会社社会計, 監査論 | |
| | 履修推奨科目 | 会計学総論, 株式会社社会計, 監査論 | |
| 学習時間 90分×15回＋自学自習 | | | |
| 授業の概要 本講義は入門レベルの商業簿記を講義する。受講者としては簿記初心者进行想定している。簿記とは、企業の経営活動を一定のルールにしたがって帳簿に、記録・計算・整理する技術である。簿記を学ぶことは、会計学を学ぶための基礎となるため、会計学に関心のある学生は、ぜひ受講してもらいたい。 | | | |
| 授業の目的 入門レベルの複式簿記の習得を目的とする。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力) | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 複式簿記の基本的原理を理解し、習得することができる。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力) | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験による。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義には必ず電卓を持参すること。 ・簿記をマスターするためには、とにかく演習問題を繰り返し解くことが必要である。このため、教科書等を利用した自学自習が極めて重要である。 <p>第1回 簿記の意義 第2回 財産の変動と貸借対照表 第3回 収益・費用の発生と損益計算書 第4回 貸借対照表と損益計算書 第5回 簿記上の取引 第6回 取引の仕訳と勘定への記入 第7回 試算表の作成 第8回 精算表の作成 第9回 現金と当座預金 第10回 商品と商品売買益 第11回 掛け売りと掛け買い 第12回 債権と債務 第13回 決算 (1) 第14回 決算 (2) 第15回 財務諸表の作成</p> | | | |
| 教科書・参考書等 田中弘『わしづかみシリーズ 簿記を学ぶ 経済常識としての簿記入門』税務経理協会, 2010年, 1800円 (購入必須)。 オフィスアワー 授業後随時受け付ける。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業に毎回出席すること。復習を怠らないこと。教科書を必ず購入すること。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-----------------|------------------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320313) 簿記入門 Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割 前期火4 | 対象年次及び学科 指定学籍番号の1年、 2年以上、その他 |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮脇 秀貴 | 関連授業科目 | 原価会計論および会計関連の授業 | |
| | 履修推奨科目 | 原価会計論 | |
| 学習時間 | 講義90分×15回+自学自習 | | |
| 授業の概要 簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が(国際)会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。 この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当てて、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。 以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。 | | | |
| 授業の目的 どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金(会計)に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金(会計)に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能(スキル)を身に付けること」です。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| (1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる (2) 個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。) | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、演習、理解度クイズ [授業計画(予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 複式簿記の基礎①(簿記とは?、貸借平均の論理、残高) (第3週) 複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは?) (第4週) 複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方) (第5週) 複式簿記の基礎④(仕訳と転記) (第6週) 複式簿記の基礎⑤(振り替えとは?、決算とは?) (第7~9週) 複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り) (第10週) 帳簿体系の基礎+個別取引(現金、現金出納帳、当座預金) (第11週) 商品取引(分記法と3文法、売掛金元帳・買掛金元帳) (第12週) その他の債権・債務①(未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など) (第13週) 手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳 (第14週) 決算整理(減価償却、有価証券の時価評価など) (第15週) 3分法による決算の処理 [自習学習に関するアドバイス] <基本> (第1~15週) 毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。 (第1週) この授業を学ぶ意味と大学で学ぶことを、配布資料をもとに考えてみて下さい。 (第2~5週) 簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。 (第6週) 仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。 (第7週) 振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。 (第8~9週) 決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。 (第10~15週) 帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように復習して下さい。 | | | |

教科書・参考書等

[教科書] (予定)宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2018

[参考書] 醍醐 聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計 (新訂版)」実教出版

オフィスアワー

毎週水曜日「15:30~17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。

| | | | |
|--|----------------|------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331010) 経済史入門 Introduction to Economic History | 科目区分 | 時間割 前期月2 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 becE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 山本 裕 | 関連授業科目 | 日本社会経済史、ヨーロッパ社会経済史、経営史 | |
| | 履修推奨科目 | 日本社会経済史、ヨーロッパ社会経済史、経営史 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 人々の経済的営みの集積の果てに、今日の私達を取り巻く経済的環境が形成されている、という理解に立った時に、それでは、どのようにして、今日の経済的環境は形成されてきたといえるのだろうか。 本科目は上述した問いに対する学術的接近を、経済史という学問領域より行うこととする。具体的には近代という時代に着目して、経済史の概説を講義する形態をとって、接近していく。その際、(1)近代の経済を、ヨーロッパを中心として、①人口、②市場、③工業化、という三点に着目してその発展を考察し、近代以前の時代との連続・非連続的側面についても併せて考察する。(2)19世紀の世界経済をヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の関係に力点を置いて、大量生産社会への移行と国際経済の生成・発展に留意しながら考察する。(3)20世紀の世界経済を、二度の世界戦争と民族独立運動の展開に留意しつつ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の経済的関係の推移に力点を置きながら考察する。以上のことがらに焦点を合わせて講義を進めていく。 | | | |
| 授業の目的 近代という時代を中心とした経済史について、その基礎知識の習得を目的とする。今日、私達は経済のグローバル化を当然のものとして理解している。しかし、人口の増大、市場圏の拡大、機械制大工業による大量生産の実現等が世界の各地で果たされた結果、ようやく19世紀に国際経済システムが生成されるに至った。以上述べたように、私達が常識として理解している経済的諸問題を、その端緒から帰結に至るまで歴史的に考え、理解していく。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1) 近代経済における地域的多様性を説明できる。 2) 一国的枠組ではなく、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とし、配布資料のノートへの貼り付けを不可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1)イントロダクション: 経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2)～(3)「産業革命」(1)「産業革命」とは何だったのか?(※講義回数2回) (4)～(5)「産業革命」(2): 「産業革命」前史—近世ヨーロッパ経済の諸相とプロト工業化の時代(※講義回数2回) (6)「産業革命」(3): ヨーロッパにおける都市化と工業化①イギリスの事例 (7)「産業革命」(4): ヨーロッパにおける都市化と工業化②フランス・「ドイツ」の事例 (8)「産業革命」(5): 新大陸の工業化と都市化 (9)国際経済の展開と帝国主義の時代(1): 「大不況期(1873-96)」における産業的競争激化 (10)国際経済の展開と帝国主義の時代(2): 国際経済の生成と発展 (11)国際経済の展開と帝国主義の時代(3): 「帝国主義の時代」におけるヨーロッパ・アジア諸国の経済的動向 (12)20世紀の世界経済(1): 第一次世界大戦～両大戦間期における諸国の経済的動向 (13)20世紀の世界経済(2): Managed Economyの時代—世界大恐慌のインパクトと1930～40年代前半における諸国の動向— (14)20世紀の世界経済(3): 第二次世界大戦後の世界経済 (15)講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく(前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする)。 なお、本科目の講義内容は、高校の歴史系科目との接続を考慮している。 高校時代購入した世界史の図説集を予習・復習時に用いることで、更なる理解が可能になる。特に世界史の図説集として、『最新世界史図説タペストリー15訂版』(帝国書院、2017年、940円[税込]。※古い版のものでも問題ありません)を推奨する。 | | | |

教科書・参考書等

- ・【教科書】：岡田泰男編『西洋経済史』（八千代出版、1995年、3200円+TAX）。生協の書籍部にて購入のこと。
 - ・【参考書】：長岡新吉・太田和宏・宮本謙介編『世界経済史入門－欧米とアジア』（ミネルヴァ書房、1992年、3200円+TAX）は、通読を望む。
- また、各回の講義における配布資料には、参考文献を記載する。

オフィスアワー

水曜日4限・5限（ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する）。研究室は、幸町南キャンパス3号館3階13室。
メールアドレスは、yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

| | | | |
|--|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312012) ミクロ経済学 I ロ Microeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期火3 | 対象年次及び学科 経営、地域、その他 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 星野 良明 | 関連授業科目 | ミクロ経済学II | |
| | 履修推奨科目 | 経済数学入門 | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部の様々な科目がミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し、ミクロ経済学は経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します。そして個々の行動（最適化）と相互関係（均衡）を考慮して、モノやサービスの市場や産業、さらには経済全体を分析します。 ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。前半のこの講義では、(1) 需要と供給、(2) 企業行動と供給曲線、(3) 消費者行動と需要曲線、(4) 部分均衡分析、(5) 独占の各トピックを学習します。 | | | |
| 授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、生産者理論の基礎、消費者理論、部分均衡論、独占の理論を習得する。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ミクロ経済学の観点から、消費者の需要が所得や市場価格にどのように反応するか説明できる。 市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題 (30%) と期末試験 (70%) により評価します。なお、小レポートや確認テストなどを追加的に行い、成績評価の(未提出でも減点なしの)加点材料として用いる場合があります。詳細は初回授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 配布資料をスクリーンに映して講義します。そして計算や作図の際には板書を使います。演習問題を宿題として課します。予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、問題を自分の手で解いてみる必要があります。 | | | |
| 【授業計画】 進行状況により若干の変更をする可能性があります。 | | | |
| 1. 需要と供給 (2回) [キーワード: 需要曲線, 供給曲線, 均衡, 完全競争, 比較静学] | | | |
| 2. 企業行動と供給曲線 (4回) [キーワード: 費用関数, 限界費用, 利潤最大化, 供給関数] | | | |
| 3. 消費者行動と需要曲線 (4回) [キーワード: 効用関数, 無差別曲線, 限界代替率, 予算線, 効用最大化, 需要関数] | | | |
| 4. 部分均衡分析 (3回) [キーワード: 弾力性, 市場需要と市場供給, 社会的余剰, 資源配分の効率性] | | | |
| 5. 独占 (2回) [キーワード: 市場の失敗, 限界収入, 独占価格, 死荷重] | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 受講生は毎回の講義内容の復習を中心に自学自習を行ってください。そして講義中に示す問題や宿題を解いて、計算や作図を行い、自分の理解を確認してください。また、経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するだけでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を考える、つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】 使用しません。講義資料を配布します。 【参考書】 自学自習用に参考書は必要です。自分に合うテキストを手元に用意してください。例えば | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣。 武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社。 その他は初回授業で紹介します。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日4時限目 (予定) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義内容は積み上げ式ですから、継続的な出席が単位取得の大前提です。試験直前の詰め込み勉強だけでは単位取得は困難です。その他は初回授業で説明します。 | | | |

| | | | |
|---|-------------|--------------------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312021) マクロ経済学 I Macroeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期金3 | 対象年次及び学科 2～経済学科 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮崎 浩一 | 関連授業科目 | マクロ経済学II、応用マクロ経済学、財政学、金融論、経済政策、国際経済学 | |
| | 履修推奨科目 | 経済学入門、経済数学入門 | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 経済学における2つの柱（ミクロ経済学とマクロ経済学）の1つであるマクロ経済学について学びます。ミクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動などを分析しますが、マクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動が集計された一国全体の経済活動に注目します。例えば、「景気が悪くなった場合、どのような政策を国はとるべきか？」や「なぜある国は富み、ある国は貧しいのか？」というような疑問にマクロ経済学は答えを与えようとする学問です。マクロ経済学Iとマクロ経済学IIを通じて、マクロ経済学の基礎の部分に講義する予定です。 | | | |
| 授業の目的 世の中には日本や諸外国の経済状況や経済政策に関するニュースで溢れています。この講義を受講することでそのようなニュースを正確に捉えることができるようになり、経済はどのように動いているのかを自分で判断するのに役に立つでしょう（DPの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」）。また、今後、マクロ経済学関連の科目（応用マクロ経済学、財政学、金融論、経済政策、国際経済学など）を履修する際にこの講義で学んだ知識が役に立つでしょう。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学とはどのような学問か説明できるようになる。 ・重要なマクロ経済指標について、その定義や特徴を説明できるようになる。 ・経済における金融市場の役割が説明できるようになる。 ・貨幣とは何か、また社会における役割は何かなどを説明することができるようになる。 ・財政の仕組みと機能について説明できるようになる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 2回のクラス内中間試験（各25%）と期末試験（50%）で判断します。中間試験は第6回と第11回の講義内で行い、講義の後半45分程度を使用する予定です。また、ボーナスとして課題をいくつか出すかもしれません。詳細は初回の講義の時に説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 講義はスライドと板書を使用します。講義前には、当日の講義のレジюмеまたはスライドをホームページ(Moodle)上に作成予定) 上で配布する予定です。 5～6回程度の提出不要の練習問題がホームページ上で配布されるので、講義の復習と試験の準備に役立ててください。以下に講義計画を挙げます。なお、以下の講義計画は進行状況により変更する可能性があります。 | | | |
| 第1回：ガイダンス、マクロ経済を観察するI：GDP（1） 第2回：マクロ経済を観察するI：GDP（2） 第3回：マクロ経済を観察するI：GDP（3） 第4回：マクロ経済を観察するII：物価と失業率（1） 第5回：マクロ経済を観察するII：物価と失業率（2） 第6回：マクロ経済を支える金融市場（1）、中間試験1 第7回：マクロ経済を支える金融市場（2） 第8回：マクロ経済を支える金融市場（3） 第9回：マクロ経済を支える金融市場（4） 第10回：貨幣の機能と中央銀行の役割（1） 第11回：貨幣の機能と中央銀行の役割（2）、中間試験2 第12回：貨幣の機能と中央銀行の役割（3） 第13回：貨幣の機能と中央銀行の役割（4） 第14回：財政の仕組みと機能（1） 第15回：財政の仕組みと機能（2） 第16回：期末試験 | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は積み上げ式なので、わからない箇所が出てきたら、なるべく早く疑問を解決するように心がけてください。後回しにするとわからない部分がどんどん増えてしまいます。解決方法としては、いろいろとあると思いますが、講義担当者やよく理解しているクラスメートに聞くのが手っ取り早いと思います。 ・提出不要の練習問題が出ますので、それを利用してしっかり復習してください。中間試験や期末試験前にまとめてやるのではなく、配布されたらできるだけ早めに手を付けましょう。 ・経済ニュースを読む習慣を付けましょう。この講義で学んだことを利用してニュースに書かれてあることが理解できるかどうか、チェックしてみましょう。 | | | |

教科書・参考書等

教科書は

平口良司、稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩手前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2,000円＋税
です。その他、参考書として

- ・伊藤元重『マクロ経済学』第2版、日本評論社、2,800円＋税
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣アルマ、2,200円＋税
- ・マンキュー『マクロ経済学1：入門編』（第4版）、東洋経済新報社、3,800円＋税
- ・斎藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学』有斐閣、3,900円＋税

を挙げておきます。

オフィスアワー 毎週木曜日2時間目と3時間目で、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業中、私語は厳禁ですが、質問やコメント等の発言は積極的にしてください。講義が楽しくなります。また、あなたの質問がみんなの理解を深めることとなります(あなたの持つ疑問は、大抵、他の受講者も疑問に思っています)。
- ・中間試験の追試は行わない予定ですので、忘れないように受験してください。
- ・授業時間中のスマホや携帯電話の使用は禁止します。

| | | | |
|---|----------------|-------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312022) マクロ経済学 I ロ Macroeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期金3 | 対象年次及び学科 経営、地域、その他 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 持田 めぐみ | 関連授業科目 | マクロ経済学Ⅱ、応用マクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | マクロ経済学Ⅱ、経済学概論、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |
| 学習時間 講義90分×15回(小テスト含む) + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 マクロ経済学は、国民所得(GDP)、消費、投資、利率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。 また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。 | | | |
| 授業の目的 マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡GDPの値を求めることができる ・IS-LMモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡GDPと均衡利率の値を求めることができる ・円高、円安といった為替レートの変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる | | | |
| ※試験では上記以外のことも出題します | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験の他に小テストを1回行い、「期末試験70%+小テスト30%」の『総合得点』を用いて評価します。ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」を単位取得の条件とします。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料(=未提出でも減点なし)として用いる場合もあります。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 1. 授業のガイダンス 2~3. マクロ経済学とは何か? 4~7. 45度線モデル 8. 小テスト 9~14. IS-LMモデル 15. 授業のまとめ 受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。 自主学習のアドバイス 1. 参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう 2~3. 【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう 4~5. 【復習メイン】テキストを読んで、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう 6~7. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう 8. 小テストに向けて総復習しましょう 9~13. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題を正しく解けるようにしておきましょう 14. 【予習メイン】これまでの講義部分でわからない点を明確にしておきましょう 15. 期末試験に向けて総復習しましょう この授業は、受講生が毎回4時間以上の自主学習をしていることを前提に進めます。(←修学案内を参照) 時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしばって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ2時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。 | | | |

教科書・参考書等

教科書は指定しません。下記参考書等から自分に合うものを選んで、使用してください。

| | | | |
|------|---------------|-------|------------------|
| 中谷巖 | 『入門マクロ経済学』第5版 | 日本評論社 | 2007年 |
| 伊藤元重 | 『マクロ経済学』第2版 | 日本評論社 | 2012年 |
| | | など | (2018.1月現在 出版年順) |

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ2列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。